

平成30年度第1回大山崎町地域創生推進会議資料

大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組み等について

資料1：大山崎町年齢階層別人口・高齢化率の推移（P1）

資料2：「大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況（P2～9）

資料3：地方創生推進交付金事業について（平成29年度）（P10）

資料4：地方創生推進交付金事業について（平成30年度）（P11）

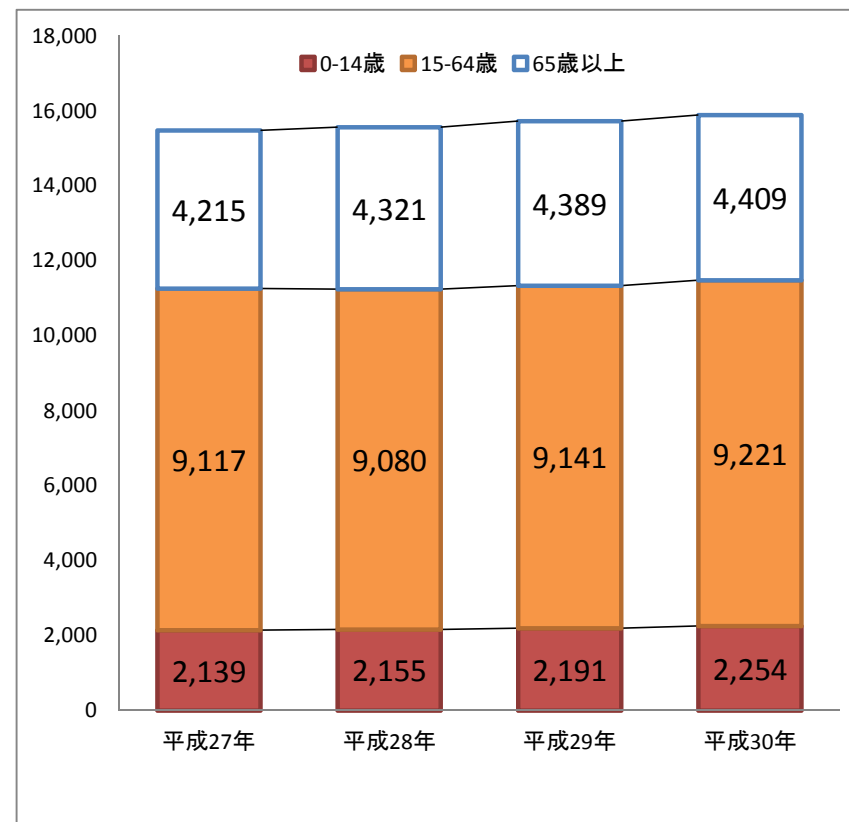
— 大山崎町年齢階層別人口・高齢化率の推移 —

資料 1

(単位:人、%)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総人口	15,471	15,556	15,721	15,884
0-14歳	2,139	2,155	2,191	2,254
15-64歳	9,117	9,080	9,141	9,221
65-74歳	2,239	2,241	2,174	2,108
75歳以上	1,976	2,080	2,215	2,301
65歳以上比率	27.2%	27.8%	27.9%	27.8%
75歳以上比率	12.8%	13.4%	14.1%	14.5%

資料:住民基本台帳(各年5月1日現在)



—「大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況—

基本目標 1 安心な暮らしを守り、利便性の高い生活を確保する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H26=59.7% H21=57.7%	定住意向の向上（住民意識調査）	—	—	—	※1
H25=9.8%	住宅の空き家率の抑制	—	—	—	

※1 定住化を促進するため、「大山崎町に住もう」を平成29年3月に刊行。

施策① 「大山崎ぐらし」の維持向上

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H26=338人	社会福祉協議会ボランティア登録人数 350人	311人	320人	338人	
H26=1,200人	町防災・防犯情報メール登録者数 2,600人	1,612人	2,538人	2,956人	※2
H26=30団体	自主防災組織の結成数 50団体	31団体	32団体	33団体	
H26=12.0%	「生活用道路の安全・快適さ」の満足度 29.0%	—	—	—	
H25=12.6% (二次除く 9.8%)	空き家率の抑制	—	—	—	

※2 前年度と比較した増加要因は、同報系防災行政無線整備に伴う防災意識の向上による。

施策② 地域交流イベントやスポーツ交流による地域づくりの推進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H26=9.5%	「町内の交流活動」の満足度 13.5%	—	—	—	
H26=55,331人	町体育館利用者の拡大	51,540人	56,363人	17,130人	※3

※3 前年度と比較した減少要因は、平成29年8月から平成30年3月まで大規模な改修工事により、全面閉館したことによる。

基本目標2 活力の回復・向上を担う人を育成する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H25=2,510人	子ども人口（0～17歳）維持	2,572人	2,577人	2,644人	※4

※4 出生数増、宅地開発による転入者増の影響による。

施策① 出産・子育てがかなう環境づくり

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H25=17.4%	出生数全体に占める第3子以降の割合 18%	15.1%	8.5%	10.0%	※5
H26=100%	妊婦健康診査の健診率(100%)維持	維持(209人)	維持(244人)	維持(266人)	
H26=100%	乳児家庭全戸訪問事業の訪問率(100%)維持	維持(133人)	維持(140人)	維持(180人)	
H26=100%	延長保育の利用ニーズ(利用者数)への対応率(100%)の維持	100% 維持	100% 維持	100% 維持	
—	一時預かり保育の利用者数 15,600人日(幼稚園) 2,624人日(幼稚園以外)	幼:3,552人日 保:1,201人日	幼:3,833人日 保:1,103人日	幼:3,576人日 保:1,535人日	
—	病児・病後児保育の利用者数 780人	利用者47人	利用者38人	利用者108人	
H26=11人	ファミリー・サポート・センター提供会員数 25人	会員数12人	会員数13人	会員数17人	

※5 年度別出生数

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
出生数	144人	146人	139人	141人	171人
うち第3子以降の出生数	25人	15人	21人	12人	17人

施策② 学力向上と生きる力を育む教育環境づくり

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
—	学力診断テストの正答率の向上	—	—	—	
H26＝普通教室数 21(0)/51室	普通教室の半数に1台のICT機器の整備 既存ICTも含む数（新設ICTの数）	23(2)/51	30(7)/51	38(8)/51	※6
H26＝協力事業所 数21か所	体験活動・学習の協力事業所の拡大	21ヶ所	22ヶ所	21ヶ所	
—	子ども会ネットワークの設置	—	—	—	

※6 各小中学校別普通教室のICT機器の整備

- ・大山崎小学校 24教室中 15教室
- ・大山崎第二小学校 14教室中 10教室
- ・大山崎中学校 13教室中 13教室

基本目標3 大山崎町への新しい人の流れをつくる

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H21—25年 =▲131人	社会増減（転入者数－転出者数）0人	107人	154人	140人	※7
H25＝ 402,444人	観光入込客数 48.5万人超	482,827人	512,649人	499,864人	
H25＝ 99,040千円	観光消費額 117,000千円超	128,326千円	134,536千円	118,889千円	

※7 転入者数 774人、転出者数 634人

施策① 大山崎町への定住の推進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
—	町外在住者が参加できる事業の拡大による在勤者の施設利用の拡大	—	—	—	※8
—	定住相談件数の拡大	1件	0件	2件	
—	定住総合相談窓口の設置	設置	維持	維持	

※8 地元企業イベントのシャトルバスの運行により町外在勤者の町イベントへの参加を促進。

施策② 観光資源の発掘・創造から観光資産への促進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
—	観光協会の設立	—	—	—	
H26=900件	町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600件	631件	—	4,701件	
H25=17人	外国人宿泊者数の倍増(年次)	134人	114人	57人	※9
H26=270人	広域連携観光参加者の拡大	334人	41人	40人	※10
H25=5ルート	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	—	—	2ルート	※11
H26=9,775人	歴史資料館入館数 11,500人(年次)	9,280人	7,997人	8,001人	
H26=16.3台	観光バス駐車利用台数(月平均) 19台超	17.1台	13.6台	11.4台	

※9 前年度と比較し、主に、韓国、台湾からの宿泊者数が減少。

※10 平成27年度に連携事業見直しに伴う事業廃止により参加者数が減少。

※11・「阪急京都線沿線観光あるき」に2ルート掲載。

・長岡京市、向日市、大山崎町、八幡市による「ぶらり京乙訓・八幡」の広域観光冊子を作成。

基本目標 4 大山崎町における安定した雇用を創出する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H22=6,911人 男性：3,934人 女性：2,977人	町内就業者数の維持	7,134人	—	—	

施策① 地元産業の活性化による雇用の確保

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H26=2,245人	「乙訓勤労者福祉サービスセンター」加入数 2,800人	2,216人	2,357人	2,316人	
—	町内イベント事業等への参加事業所の拡大	—	—	—	

施策② 地域ブランドの創出による地域経済の活性化

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
—	特産品開発の支援体制の整備	—	—	特産品開発	
H26=1か所	農産物直売所数（1か所）の維持	維持	維持	維持	

施策③ 観光振興による雇用の創出

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	備考
H25=17人	外国人宿泊者数の倍増（年次）【再掲】	134人	114人	57人	
H26=270人	広域連携観光参加者の拡大【再掲】	334人	41人	38人	
H25=246円	観光消費額（1人当たり）の倍増	266円	262円	238円	
H26=97事業所 572人	卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大	—	事業所数：86 従業者数：441	—	

【地方創生推進交付金事業について（平成29年度）】

資料3

	事業名	事業総額	交付金額
単独	「天下取り」観光産業創出事業	13,143,002円	6,571,501円
広域	老若男女総輝き事業	250,000円	125,000円
	計	13,393,002円	6,696,501円

<事業名【単独】>

「天下取り」観光産業創出事業

<事業概要>

観光産業創出事業の2年目としては、体験型観光の創出事業に注力する。本町の課題である「体験観光」関連事業を充実するために、大山崎天下取り決戦祭りやお茶会等における武将の甲冑体験等、体験型観光事業を企画するとともに、「天下取り」観光産業創出に係る観光土産品等の開発支援事業に取り組む。

<p>●観光周遊地整備事業（5,324,528円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天王山景観保全事業＝4,800千円 ・天王山のファン創出事業＝155千円 ・天王山ハイキング道（秀吉の道）の環境維持管理＝1,646千円 	<p>●特産品・土産品の創出事業（2,686,696円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天下取り」ブランド構築に係る特産品・土産品開発支援事業＝2,000,000円 ・「天下取り」ブランド構築に係る機運醸成事業＝686,696円
<p>●体験型観光の創出事業（4,636,778円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦国武将の甲冑整備事業＝1,779,948円 ・大山崎天下取り決戦まつり開催業務＝1,000,000円 ・お茶の京都関連事業＝962,158円 ・観光大使任命関連事業＝30,672円 ・観光アプリ運用事業＝864,000円 	<p>●広域観光推進事業（495,000円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連盟・協議会等負担金＝495,000円

【地方創生推進交付金事業について（平成30年度）】

資料4

	事業名	事業総額	交付決定額
単独	「天下取り」観光産業創出事業	10,400千円	5,200千円
広域	老若男女総輝き事業	250千円	125千円
	計	10,650千円	5,325千円

<事業名【単独】>

「天下取り」観光産業創出事業

<事業概要>

観光産業創出事業の3年目として、体験型観光事業の実施に向けてのPR事業等の支援、観光土産品等の販路拡大に向けて支援事業に取り組むとともに、観光者受入の観光周遊地の整備事業を継続実施する。また、平成29年度に開発した土産品のPR等を推進することで、観光入込客数及び観光消費額の底上げと観光産業の創出を図る。さらに、行政と町民が一体となった観光推進を図り、町民のわが町への愛着や我が町を誇りに思う気持ちを醸成し、まちづくりの担い手を発掘するといった、観光を機軸としたまちづくりを進め、地域経済の活性化に繋げる。

<p>●観光周遊地整備事業（3,450千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天王山景観保全事業＝1,670千円 ・天王山のファン創出事業＝130千円 ・天王山ハイキング道（秀吉の道）の環境維持管理＝1,650千円 	<p>●体験型観光の創出事業（2,320千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山崎天下取り決戦まつり開催業務＝1,300千円 ・観光大使関連事業＝450千円 ・観光アプリ運用事業＝440千円 ・天下分け目のリベンジマッチ＝130千円
<p>●土産品・土産品の創出事業（3,900千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土産品・土産品販売促進事業＝1,500千円 ・勝負の聖地観光PR事業＝2,400千円 	<p>●観光産業の創出事業（200千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が町再発見ツアー＝200千円
<p>●広域観光推進事業（530千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連盟・協議会等負担金＝530千円 	